

2025 3Q 目標

2025年9月10日 23:09

■数値演算

数値演算機能の実装・不具合修正を完了させて、リリースできる状態にする。

- ・10月27日のリリース判断までにTC消化一巡、3Q中に収束させる見通しを立てる。
- ・PCソフトを除き、12月20日までに不具合残件を1桁にする。

アクション

評価チーム全体に数値演算を開く展開し、各機能の検証業務の中で活用してもらうことで、実運用での信頼性を確認し、品質リスクを低減する。

■Kvic出力

- ・10月27日のリリース判断までにTC消化一巡、2Qに抽出した品質リスク項目についての評価を完了させて、リリース可否を判断できる状態にする。
- ・12月20日までに不具合残件を1桁にする。

アクション

■イメージストリップ

- ・10月27日のリリース判断までにTC消化一巡、2Qに抽出した品質リスク項目についての評価を完了させて、リリース可否を判断できる状態にする。
- ・12月20日までに追加仕様の実装を完了、不具合を収束させた状態にし、リリースできる見通しをつける。

アクション

- ・イメスト単体ではなく、データ活用の中核として、イメファイ・パラチュー・検証ツールと関係させた実運用に即したユースケースで、性能やユーザビリティに問題ないことを確認する。

■その他

ACTX V222コントローラ対応

KSW派遣チームから、事業部契約の外注チームへの開発移管を2025年度中に完了させる。
KSW工数を3Qは1.5人月以下（事業部は3人月）、4Qは1人月以下（事業部は6人月）、2025年度は0にする。

CRA対応

XGX周辺ソフトのライブラリバージョンの更新を完了させる。
CVXのライブラリバージョン更新に着手する。（完了は4Q中）

■組織課題

VS PCソフトの品質向上の取り組み

PCソフトをView/Viewモデルからテストできる環境を整備し、V222で開発する機能への展開を推進する。

自動テスト推進

上記リグレッションテスト環境を活用して、リグレッションテストを増強する。

リグレッションテストを継続できる仕組みと体制づくり

アクション：

リグレッションテストのカバレッジ向上

機能追加や改修時に影響を受けやすい領域を特定し、重点的にテストケースを整備する。

チーム体制の強化と継続性確保

従来のUI自動化ツール（RK）よりメンテナンスコストが低く、テスト作成効率が高いリグレッションテスト環境を整備し、UI自動化ツールからの乗り換え、テストシナリオを増強する。

シナリオは倍以上、メンテナンスコストは従来通りかそれ以下にする。

テストケースの抽出→シナリオ作成→テスト実装→実施の一連のテスト運用プロセスを整備し、各チームの役割分担を決めて、継続的にリグレッションテストを担える体制を確立する。

デグレードを検出できるテスト環境を構築し、継続的なリグレッションテストを担える体制を確立する。

従来のUI自動化ツールよりも低コストで効率的な仕組みに刷新し、シナリオ数を倍増させつつ、メンテナンスコストは従来以下に抑える。

アクション

- 新しいリグレッションテスト環境の導入と移行を推進する
- プロセス整備と役割分担により、継続的にテストを回せる体制をつくる

開発・テストチーム・KSW実装QUPの三者が連携し、リグレッションテストを継続的に実施できる体制を構築した。従来外部スタッフが行っていた全機能テストを見直し、内容と実

施方法を効率化するとともに、評価チームがテストケース作成・実施を担い、KSW開発がテストプログラム作成を担う形で役割分担を明確化した。さらに、島ごとに異なるネットワーク環境の構築や、定期的な確認事項を担当者が日常検証の中で実施できる仕組みを整備し、日々の業務負担を増やさずにリグレッションテストを定着させた。これにより、品質維持に不可欠なテストの改善・増強を継続的に推進できる基盤を確立した。

よかった点としては、数値演算やイメストにおいて早期に性能面に着目し、仕様面の見直しを実施できたことが挙げられます。また、テストチームのリグレッションテストを立て直し、実際に性能デグレを検出できている点も成果です。一方で、任されているチーム（イメスト・数値演算・イメファイ出力）における不具合修正のベロシティが上がっていないことが課題です。今後は、実装や不具合修正の難易度を高めている仕様を調整するとともに、PCソフトについてはKSW実装QUPと連携してリグレッション環境を整備し、効率的に品質を確保していきます。